

令和6年度 ときわ会 活動の重点と重点達成の方策

現職会員約3,000名、OB会員を含めて約6,000名から構成されるときわ会の最大の財産は「人」である。令和5年10月1日に開催した「ときわ会創設150周年記念式典」では、現職会員が一堂に会し、先人の志を再確認し、継承することができた。また、現職会員同士の全県交流会では、年代や職種を越えた交流により、ときわ会の財産が魅力ある多様な人材であることを改めて実感する機会となった。

ときわ会創始からの150年の歩みを振り返ってみても、ときわ会が「人」によって支えられ、営まれてきたことが分かる。創設150年を経た今、改めて教育の不易と流行を見定め、原点に戻るとともに、新たな展望をもってときわ会の活動を推進していく必要がある。ときわ会は、研修、親睦等の諸活動を通して会員の資質向上に努め、本県の教育課題でもある、未来を切り拓く力の育成、子供と教師自身のWell-being等を実現し、本県教育の振興に寄与していく。

私たちは、ときわ会において様々な人たちとの出会いの中で、人から学び人に活かされている。ときわ会で人と出会い、その人の見方・考え方や人間性に触れ、自分自身を見つめ直していくことが、教師としての資質・能力を高めることにつながっている。

そして、本来、学ぶということは主体的な行為であり、人から強制されるものではない。自ら求めて学んでいくからこそ、私たちは自身を鍛えていくことができる。それゆえに、会員が主体的に参加したくなる、魅力ある研修がより一層、これからのときわ会に求められている。令和6年度は、ときわ会の財産である多様な人材を活かし、会員一人一人の資質・能力を高めるための魅力ある研修を推進していく。各会員には、自らの資質・能力を高めるために、研修への主体的な参画を期待したい。

また、令和5年度のときわ会の活動は、新型コロナウイルス感染症への対応が新たな段階に移行したことに伴い、本部、支部、年度のすべての活動で、対面形式で研修や親睦を行う機会が増加した。このことにより、人と人との交流が活発となり、互いに刺激を受け、高め合う姿が多く見られた。令和6年度も現職会員、OB会員を含めて、会員相互のつながりを大切にした組織運営を推進し、今まで以上に参集・親睦の機会を増やしていく。各会員には、自らの資質・能力を高めるために、組織運営への積極的な参画を期待したい。

以上のことから、令和6年度のときわ会は、「**人材を活かし、主体的に学び合い鍛え合う研修、人と人とを確かにつなぐ組織運営**」を基本方針として、着実な実践を力強く推進する。

II 活動の重点と重点達成の方策

重点1 主体的に学び続ける会員一人一人の資質・能力を高めるため、ときわ会の多様な人材を活用し、ニーズに応じた魅力ある研修を推進する。

会員が経験年数や職務に応じて、これから求められる資質・能力を高めるために、会員が主体的に参加したくなる研修を推進する。ときわ会の多様な人材を活用した研修を計画したり、会員自らが研修を企画できる研修システムを継続したりして、会員一人一人の実践的指導力の向上を図る。

- (1) 子供の多様な実態に応じた、社会で求められる力を育成する授業力を高める研修
- (2) 不登校やいじめ等の生徒指導上の課題や学級経営、保護者対応、教育相談等、学校が直面している課題を解決するための研修
- (3) G I G A スクール構想の先を見据えた、新しい時代の教育に対応した研修
- (4) 一人一人に応じた合理的配慮を一層提供できる特別支援教育に関する研修
- (5) ときわスーパーティーチャー認証者やサークルを活用した専門性を高める研修

重点2 ときわ会の多様な人材をつなぎ、会員一人一人の人間力を向上させるため、各種会合の内容と方法を工夫し、組織の活性化を図る。

支部や年度等を母体としながらも、会員一人一人がその枠を越えて、多様な人材と人とのつながりを深めていける活動を推進する。そのためには、会員が自らライフステージを考え、主体的に取り組んでいけるような支援が必要である。また、会員が学びやすい環境や活躍できる場を整え、組織の活性化と人材育成を計画的に進める。

- (1) 地域や職種、世代を越えた交流が一層進むように、各種会合のもち方について、内容や形式、時間帯等を目的に立ち返って工夫する。
- (2) 支部長及び校園長会員が、会員一人一人の現状や願いを丁寧に把握し、会員のさらなる自己実現を後押しするとともに、各組織で活躍できる場を整える。
- (3) 教育研究発表会、ときわスーパーティーチャー、ときわ教育賞・ときわ教育奨励賞等の事業を通して各地域や分野の中核となる人材を計画的に育成するとともに効果的な活躍の場を整える。
- (4) 若手会員や少数の職種・校種の会員、自立会員等への支援の充実を図り、会員が学びやすい環境や活躍できる場を整え、相互の連携と組織的な活動を推進する。
- (5) 会員がより主体的に活動に参加できるように、諸活動の方法を工夫するとともに、会員一人一人のアイデアを活かしたり、会員が提案・実践したりできる機会を整える。

重点3 ときわ会の趣旨や活動の理解、社会への認知を図るため、研修や活動の情報公開と発信を進め、会員内外のネットワークを強固にする。

ときわ会の研修や活動に関わる情報公開と発信を、様々なメディアを通して積極的に推進する。また、様々な機関とのネットワークを拡充させ、学生も含めた会員以外への研修機会の提供や、広い実践交流を通じた活動の充実を図る。

- (1) ときわ会ホームページや「エデュコにいがた」、SNS（LINE）等による情報発信を推進し、ときわ会の趣旨や活動についての会員の一層の理解を図る。
- (2) 研修会等において会員以外が講師、情報提供者、発表者として参加する機会を設けたり、教育関係者以外の講師を招聘したりして積極的に会員以外との交流を推進する。
- (3) 行政機関、県内外の諸大学、教育関係諸機関、公益財団法人新潟教育会等の団体との交流を深め、連携を推進する。